

《履修上の留意事項》この演習の3～7回と12～14回では、クラスを2グループに分け、各教員がローテーション形式で同時開講する。

《担当者名》○飯泉智子 i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp 飯田貴俊

【概 要】

摂食嚥下リハビリテーションの評価、介入の実際を学ぶ。

【学修目標】

<一般目標>

典型的な摂食嚥下障害を持つ対象者に適切なリハビリテーションを提供するために、基本的な介入計画を立案し、評価、訓練を実施する能力を身につける。

<行動目標>

1. 症例の問題点を整理し、優先事項を決定することができる。
2. 複数の情報から、現象の背景となる機能障害仮説を立てることができる。
3. 摂食嚥下リハビリテーションの介入計画を作成することができる。
4. 摂食嚥下関連器官の運動および感覚の特徴を抽出し、適切な表現で記述することができる。
5. 摂食嚥下機能検査を適切に行うことができる。
6. 摂食訓練（直接訓練）、基礎訓練（間接訓練）の基本的治療手技を実践することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の進め方の説明 評価、治療に関する知識の振り返り	飯泉智子
2	摂食嚥下リハビリテーションの概要	症例で学ぶ摂食嚥下リハビリテーションの概要を学ぶ	飯泉智子
3	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
4	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
5	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
6	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
7	評価	情報収集、機能検査、スクリーニング検査等	飯泉智子 飯田貴俊
8	評価	画像所見の読影（VF読影）	飯泉智子
9	評価	画像所見の読影（VF読影）	飯泉智子
10	評価	症例で学ぶ評価のまとめ	飯泉智子
11	訓練	治療（実施とプログラム）に関する知識の振り返り	飯泉智子
12	訓練	基礎訓練、摂食訓練	飯泉智子 飯田貴俊
13	訓練	基礎訓練、摂食訓練	飯泉智子 飯田貴俊
14	訓練	基礎訓練、摂食訓練	飯泉智子 飯田貴俊
15	まとめ	症例で学ぶ摂食嚥下リハビリテーションの実践	飯泉智子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題40%

定期試験60%

【教科書】

稲本陽子 他 編 「クリア言語聴覚療法 9 摂食嚥下障害」 建帛社 2024年

【参考書】

藤島一郎 監訳・著 「MASA日本語版嚥下障害アセスメント」医歯薬出版 2014年

【備考】

演習科目は臨床的態度、評価、治療手技の習得の場であり、毎回、必ず出席することを前提としている。やむを得ず欠席する場合は、担当教員のメールアドレス宛に事前に連絡し、対応方法について指示を受けること。

摂食嚥下障害学で使用した教科書、配付資料を持参すること。

画像などの特殊教材を多用するので、受講方法に注意し、指定された物品を必ず持参すること。

受講者の学習環境としてGlexa（主）、GoogleClass（副）を利用する。

授業に関する連絡、音声動画教材の視聴案内、課題の提出、学生相互の意見交換やグループ学習にGlexaを利用する。

予習用オンデマンド講義動画、授業参考動画はGoogleClassを利用する。

●担当者連絡先

飯泉智子：i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp

【学修の準備】

摂食嚥下障害学で使用した教科書、配付資料など参照し、指定された範囲の事前学習課題に取り組むこと。（20分）

教科書、摂食嚥下障害学配布資料、演習資料を読み解き科学的文章作成能力の向上に努めること。（20分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

飯泉智子（言語聴覚士）

飯田貴俊（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、摂食嚥下障害のリハビリテーションに関する臨床的な視点を含めた基本的知識および実践について講義する。